

ハイライト

Economic Performance



アサヒビール(株)
博多工場長
秀島 教文さま

私どもアサヒビール博多工場は福岡市でビール類を生産し九州・山口県に出荷を行っています。私どもが、安心して安定的にビール類を生産しお客様にお届けできるのは、九州電力様から安定的に電気を供給していただいているお陰でございます。改めて厚く御礼を申し上げます。

私どもも商品を通じ、企業活動を通じて社会に貢献することを経営理念としています。特に昨今は自社からの視点ではなく、広く社会から、あるいは環境のように地球全体からみてどうなのかというのが問われています。お酒の会社ですからお酒の良さ、弊害を知った上でそれを正しく消費者に伝え、お酒の文化を育てていく必要があります。また、私どもの使う原料はほとんど国内では調

達できません。海外から調達するわけですが安全なものを、安定的に調達するにはお金を出せばできるというものではありません。それ相応の貢献をしなければ情報すら入ってこないというのが実情です。日本のように資源のない国で、企業が存続するためには「世界で価値があるか」が重要になっていと思っています。しかも世界で優位性があるのは日本人の知恵と技術とそれを向上させようとする高い意欲だと思っています。

電気のユーザーとしても地球温暖化防止のために資源を節約し効率的に使わなければならない使命があります。環境に優しい資源を調達することが求められています。電気を安全に使用し災害やトラブルの発生を防止しなければなりません。そのような点では本当に未熟です。長い目で見てユーザーが正しい知識をもって正しい使い方をすることが、御社の発展につながるといいます。このようなつながりを機会に是非ご指導を賜りたくお願い致します。

電気料金を値下げしました。 (特集1)

2005年10月に「原子力発電における使用済燃料の再処理等のための積立金の積立て及び管理に関する法律」が施行されたことを契機として、2006年4月から電気料金を値下げしました。

P11

3年ぶりの減収減益となりました。

猛暑・厳冬などにより販売電力量は増加しましたが、2005年1月から電気料金を値下げしたことにより、連結経常利益は1,252億円となりました。今後とも、経営目標の達成に向け、収益性の向上と一層の効率化に取り組んでいきます。

なお、決算発表の早期化に取り組み、本年度は4月27日に決算発表を行いました。

P13, 63

「キレイ・ライフ」をお勧めしています。

「キレイ・ライフ」をキーワードに、オール電化住宅の普及促進を図っています。



P16



CSR推進会議を設置しました。

CSR活動全般の積極的な推進に向け、社長を委員長とするCSR推進会議を設置しました。

P22

供給信頼度の維持に努めています。

台風など大規模非常災害時の早期復旧のため、配電復旧車両の空輸の技術を確認しました。

また、長崎県五島列島と九州本土を海底ケーブル(53km、日本最長)で連系し、九州本土からの電力供給を開始しました。

P18



Corporate Social Responsibility

ハイライト

Environment Performance



長崎大学教育学部
助教授
藤本 登さま

エネルギー供給を中核とする企業として、電力自由化やオイルピーク論を伺わせる原油高騰といった厳しい経営環境にあつて、CO₂排出量の抑制や産業廃棄物の削減、植林、環境教育支援などの諸活動を実施し、自社の環境会計制度を活用して環境経営を推進している点は高く評価されます。今後は、実績や結果だけでなく、その評価や議論の内容など活動のプロセスを公開し、より分かりやすい紙面づくりを心がければ、一層高い評価を得られるのではないのでしょうか。

一方で、将来的な世界のエネルギー需給を考えた場合、プルサーマル計画は必要不可欠といえますが、地域分散電源として期待されるバイオマスエネルギーに関する技術開発や、大規模商業地区へのコージェネレーションシステムの導入といった取組みは少ないように思われます。また、3Rの前に、Refuse（買わない、持ち込まない）をまず考えるような環境理念も必要ではないのでしょうか。

何れにしても、持続的な発展を見据えるならば、電源開発においても、環境、社会、経済の全ての要素を包含した概念をステークホルダーと共創することが必要です。そこで創造された価値観を社会に返すことが将来の電源のベストミックスには必要不可欠です。そのような活動により、安心感が醸成されると思います。

最後になりますが、地熱発電事業等で見られる国際貢献もエネルギー自給率4%の我が国にとつては価値ある取組みであると考えます。今後は、更にそれを発展させて、植林や環境教育活動での国際貢献も行って頂きたい。それだけの資源、資質を九州電力グループは持ち合わせていると思います。

EMS運用レベルの向上に努めています。

これまでの本店環境部による事業所支援に加え、新たに「EMS専門研修」を開始しました。

P36

地球温暖化問題への取組みを充実しました。

2006年度より、事務所における省エネ・省資源活動の更なる推進を図るため、「自家消費電力」などの環境目標を新たに設定しました。

また、地球温暖化推進本部（本部長：小泉首相）が展開する「チーム・マイナス6%」にも2005年6月から参加しています。

P39, 65

産業廃棄物の共同回収を開始しました。

効率的かつ効果的なりサイクルの推進と社外埋立処分量の削減を図るため、産業廃棄物の共同回収を開始しました。

P41

環境影響評価方法書を提出しました。

次期原子力の2010年代後半の開発を目指し、川内原子力発電所地点において環境調査を実施しており、2005年8月に「環境影響評価方法書」を国及び関係自治体へ提出しました。

P42

各地域のエコ・マザーが特色のある環境広報活動を展開しています。

2005年度は、幼稚園・保育園・子供会で209回の環境紙芝居の読み聞かせを実施しました。



P44

環境紙芝居の読み聞かせ

「九州ふるさとの森づくり」を九州各地で展開しています。

2001年から10年間で100万本の植樹を行う「九州ふるさとの森づくり」は6年目を迎え、植樹した苗木は54万本を超えました。



P44

人吉市草津川源流域の森づくり

ハイライト

Social Performance



NPO法人
ワークショップ「いふ」
理事長

星子 邦子さま

「顧客満足」と「笑顔」

「幸せ」って何？「満たされた生活」ってどんな生活？高度成長からモノ余りの暮らしに突入し、捨てることの罪悪感と満足の限界を忘れてしまった私達。その裏では核家族化した少子高齢社会での子育て不安と介護の心配を持ち、幸せを模索し続けています。

災害時、誰が私を助けてくれる？電気は水は、食料は大丈夫か……。人と人の見えない繋がり、無関心層の広がり、多様化する価値観やニーズの中で、生活者の求めに、行政のみならず、企業がどのように対応できるか、大きく問われています。

九州電力の経営理念にVoice of Customer・お客様の声を起点とした経営をコンプライアンスの主軸とし「顧客満足」の向上を追求するという指針がみられます。エネルギーの安定供給は勿論、地域住民・作業従事者・社会の安全確保に対する安心安全への

対応、地域社会への貢献など、百人百様に異なる満足を聴き・汲み取り対応するというのです。

しかし「幸せ」の在り様も「満足」の形も定義できなくなった時代の「あんな幸せ、こんな幸せ、やっと満足、もっと満足を」に応えるのは大変な事と思われれます。もしかしたら、今、新しい価値観や感動を提案するプロダクト・イノベーションの展開が求められているのかも知れません。物流や販売のように、形あるモノを介する顧客との交流は、満足の尺度も測りやすいものですが、電気事業は使えなくなった時の困惑の大きさに比べると、使えることが当然で、日常的には感謝も感動も希薄で、幸せ感や満足感が捉えにくく、満足や幸せ感の再確認が必要となっています。

ところが最近、九州電力の経営姿勢を表現する一文に「顧客満足の向上」を「お客様の笑顔のために」と置き換えた表現を発見しました。期待に応え、信頼され、喜びを与え、社内外に「笑顔」を溢れさせることのできる企業であることを目指しています。蛍光灯の明かりも素晴らしいけど、裸電球の温もりも大切にしたい…そんな、温かい企業であって欲しいと思いました。

コンプライアンス 相談窓口を拡大しました。

従来からの社内相談窓口に加え、2005年4月から社外の弁護士事務所にも窓口を設け、相談者をより厳密に保護し、相談者が相談しやすい体制としました。

P26

情報セキュリティ体制を 構築しました。

社長を情報セキュリティ総括責任者とするマネジメント体制を構築し、全社をあげて情報セキュリティの確保に取り組んでいます。

P29

情報公開を 一層推進しています。

社長定例記者会見やIR活動など、経営の透明性確保に向けた積極的な情報公開を推進しています。

P31

様々な コミュニケーション活動を 展開しています。

ステークホルダーの皆さまからのご意見・ご要望を事業活動へ反映させていくため、九電アドバイザー制度やお客さま懇談会など、様々なコミュニケーション活動を展開しています。



九電アドバイザー懇談会

P33

育児・介護支援制度の充実を図りました。

改正育児・介護休業法の趣旨を踏まえ、育児・介護支援制度を見直し、2005年4月から運用を開始しました。

P46

障害者の雇用促進を図っています。

～(株)九州字幕放送共同制作センター～

障害者による障害者のためのテレビのバリアフリーを実現しています。



P47

今般、新たな試みとして「CSR報告書」を発行されますことに心より敬意を表します。電力の安定供給という大変に公益性の高い事業を営まれる貴社にとり、当該報告書は誠に意義ある1冊になるものと思慮いたします。

幾つかの取り組み活動紹介の中で特に関心を引くものが、人材育成であります。各々部門別または階層別研修等の実施により職業人としての技量は確実に向上されるでしょう。

一方で働く価値観が多様化する昨今の世の中で、強く求められているのが健全な職業倫理の確立であると実感しています。ニュース等で取り上げられる組織内トラブル、

また反対に大いなる企業業績の飛躍を見るにつけ、どこまで規定や賞罰を強化しようとも、人間が営む企業活動を最終的に律するのは高度な職業意識を持つプロ集団が醸し出す企業文化・風土であると考えます。数値化が難しい要素ではありますが、こうした観点からの分析と研修プログラムも今後重要になるのではと考えます。



立命館アジア太平洋大学
学長
モンテ カセムさま

従業員の能力アップを図っています。

会社・職場の「育成の意志」と社員自らの「向上の意欲」を両輪とする人材育成を推進しています。

P50

原子力発電所の安全安定運転を徹底しています。

原子力安全文化を醸成し、品質保証活動や予防保全工事を確実に実施しています。

P51

地域の芸術文化を支援しています。

九電ふれあいコンサート
九電文化の森コンサート

九州における音楽文化の普及のため、九州交響楽団によるクラシックコンサートを九州各地で開催しています。

P55



若手工芸家国内外派遣研修

九州の伝統的工芸品の技術継承及び後継者育成を支援するため、若手工芸家国内外派遣研修制度を設けています。

P56

シンボルスポーツを導入しました。

社員だけでなく地域の皆さまからも愛されるチーム創りを目指し、当社ラグビー部を「シンボルスポーツ」と位置づけました。

P57



社会福祉への取り組みを行っています。

各事業所において、独居老人宅の配線診断・照明器具清掃や社会福祉施設への慰問などを行っています。



P58

プルサーマル計画を推進しています。 (特集2)

玄海原子力発電所3号機でのプルサーマル計画に対して、佐賀県及び玄海町から事前了解をいただきました。



P61